

外為ウィークリービューⅢ 南半球編

先週までの為替相場のレビューと、
今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2011/06/13

米国の景況感を見ながらの相場展開か

通貨ペア	基調		ページ数
<u>豪ドル/円</u>	↘	中国のインフレ動向に注目 予想レンジ: 82.10 ~ 86.20 円	2 - 3
<u>NZドル/円</u>	↗	ボラード総裁の声明を受けて反発 予想レンジ: 64.60 ~ 67.40 円	4 - 5
<u>ランド/円</u>	→	決定打不足でレンジ継続か 予想レンジ: 11.60 ~ 12.00 円	6 - 7
<u>経済指標 カレンダー</u>	一週間の予定を一覧で表示		8 - 9

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

AUD/JPY

豪ドル/円 6/6～10の主な推移



6/6 Monday	仲値公示に向けたドル買いの思惑からドル/円が上昇すると、連れて豪ドル/円は上昇し、86.43円の高値をつけた(①)。
6/7 Tuesday	豪準備銀行(RBA)キャシュターゲットでは、一部では利上げ期待も出る中、政策金利を年4.75%にて据え置いた。またその時の声明文では早期利上げについての言及はなかったことから、発表後は豪ドル売りが優勢となり、豪ドル/円は85.67円まで下落した(②)。
6/8 Wednesday	仲値公示後にドル売りが強まり、ドル/円の下げに連れて豪ドル/円も下落(③)。また原油先物相場を始め、欧州株や時間外のNYダウ平均先物が下落する中、ドル/円が一時79.69円まで下落すると、連れて豪ドル/円は84.40円の安値をつけた(④)。
6/9 Thursday	豪5月雇用統計では、失業率は4.9%と予想と同じ結果となった。しかし新規雇用者数は0.78万人増と予想(2.50万人増)を大きく下回ったことを受けて豪ドル売りが強まり、豪ドル/円は急落。その後、欧州株の下落を背景に、豪ドル/円は84.45円まで一段安となった(⑤)。だがNY市場に入り、NYダウ平均の7日ぶり反発や原油先物相場の上昇を手掛かりに、豪ドル/円は85.52円まで反発した(⑥)。
6/10 Friday	NYダウ平均や原油先物相場の下落を背景にリスク回避の動きが強まると、豪ドル/円は84円台半ばで弱含む展開が続いた(⑦)。

上昇要因(豪ドル高・円安)

- ・日本と豪州の金利差
- ・世界経済の回復期待の強まり、懸念の後退
→リスクを取ることに積極性が増す
→主要国株価の上昇
- ・豪州の利上げ再開観測
- ・原油などの資源価格の上昇
- ・本邦及びG7の円売り介入

下落要因(豪ドル安・円高)

- ・世界経済の回復期待の後退、先行き懸念
→リスクを取ることに消極的になる
→主要国株価の下落
- ・原油などの資源価格の下落
- ・中国の金融引き締め観測
- ・中国経済の減速懸念

巻末の特記事項を必ずお読みください。

AUD/JPY

今週の見通し

先週、豪準備銀行(RBA)が政策金利発表時に出した声明に加え、豪5月雇用統計の結果を受け、豪州での早期利上げ期待が後退した。このことにより、今週の豪ドル/円の上値は重いと見る。

今週、中国では5月消費者物価指数の発表が予定されている。もし、インフレ率の高止まりを受けて利上げ観測が強まる場合、中国の経済成長ペースの鈍化から資源需要の減退観測につながりやすい。この場合、中国と経済的結び付きの強い豪州経済にとって悪材料となり、豪ドル売りの材料となることが予想される。

そのほか、米国では5月の小売売上高(14日)や消費者物価指数(15日)など、重要な経済指標の発表が相次いで予定されており、米経済の景況感を探る相場展開が予想される。ただ、10日にはNYダウ平均が12000ドルの大台を割り込んだことから、現在は悪材料に反応しやすい地合いと見られ、発表される経済指標が予想を下回る場合、米株が下落し豪ドル/円には下落圧力が掛かる事が予想される。一方で予想を上回る場合でも、米景気の減速懸念を覆すのは容易ではなさそうであり、豪ドル/円の上昇は限定的となる可能性もある。(川畑)

(予想レンジ: 82.10~86.20 円)

テクニカル分析

〔移動平均線〕

20日線 60日線 200日線

〔ボリンジャーバンド〕

+2シグマ -2シグマ



●AUD/JPY 6/10週足引値:84.56円 (日足、移動平均、ボリンジャーバンドから見る相場展開)

豪ドル/円は3週連続で陰線となったが、26週線(6/10時点では84.59円)で辛うじて下支えされた。今週、引値で同線を下回る場合、相場は下落トレンド入りの可能性が強まるので注目したい。

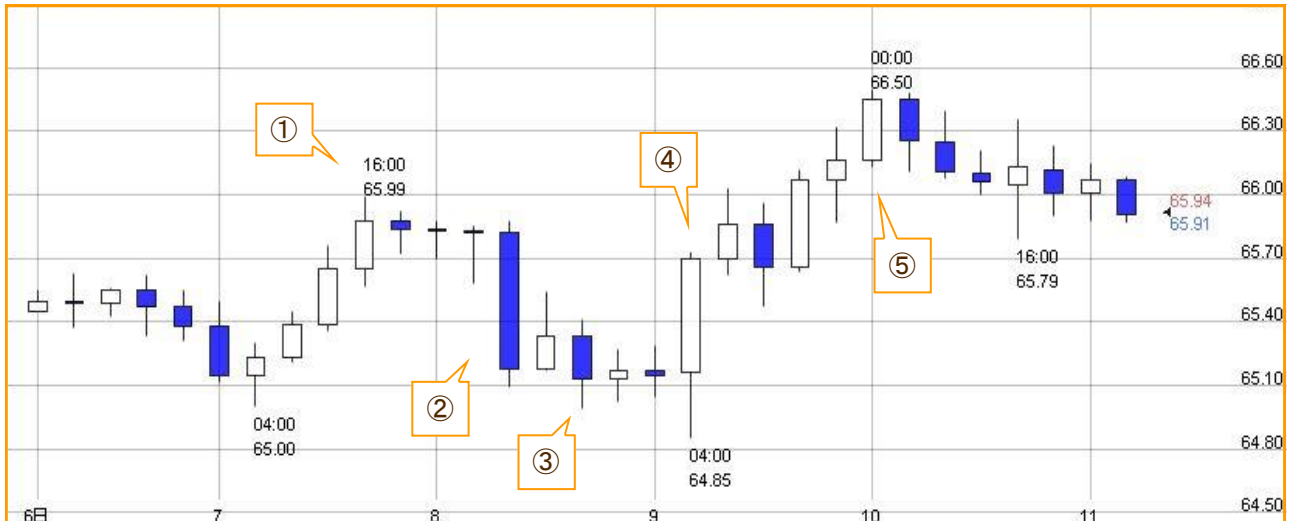
ボリンジャーバンドは6/10現在、上限:87.56円~下限:84.74円と、ローソク足がバンド下限を押し下げる動きとなっている。現状は84.30円(5/5安値)レベルが下値として機能しているが、この辺りを割り込む場合、下値余地の拡大が考えられる。

移動平均は20日線(6/10時点では86.15円)が下向きで推移しており、上値は重そうだ。ただ200日線(同、83.15円)は緩やかに上向きにつき、一度は下値を支える可能性もある。

上値ポイントは①85.50円(6/10高値)、②86.15円(20日線)、③86.59円(6/1の陰線実体部1.16円の2/3戻し)であり、下値ポイントは①84.30円(5/5安値)、②83.15円(200日線)、③82.12円((3/18安値74.25円-4/11高値90.00円の値幅15.75円の2/3下押し)である。(川畑)

NZD/JPY

NZドル/円 6/6~10の主な推移



<p>6/7 Tuesday</p>	<p>午後に入り、日経平均株価や時間外のNYダウ平均先物が上昇すると、この流れを受けて欧州株も上げ幅を拡大した。これを受けリスクを積極的に取る動きとなり、NZドル/円は上昇した。また17時過ぎに中国為替当局者が「ドルは他の主要通貨に対して下落を続けるだろう」と発言し、ドルが主要通貨に対して売られた。これを受けドル/円は小幅に値を下げたものの、米ドル売り・NZドル買いの流れを受けて、NZドル/円は65.99円まで上昇した(①)。</p>
<p>6/8 Wednesday</p>	<p>仲値公示後にドル売りが強まり、ドル/円の下げに連れてNZドル/円も下落(②)。また原油先物相場を始め、欧州株や時間外のNYダウ平均先物が下落する中、ドル/円が一時79.69円まで下落すると、連れてNZドル/円は一時64.99円まで値を下げた(③)。</p>
<p>6/9 Thursday</p>	<p>NZ準備銀行(RBNZ)は市場の予想通り、政策金利を年2.5%にて据え置いた。しかしその際、ボラードRBNZ総裁は会見で、「インフレ抑制に向け、今後2年間で段階的に金利を引き上げる必要がある」との認識を示した。これを手掛かりにNZドル買いが強まると、NZドル/円は取引開始直後につけた安値64.85円から1円近く急騰した(④)。その後、ボラード総裁が「今日のNZドルの上昇は過剰反応」と発言し、NZドル/円は65.62円まで押し戻されたものの、NYダウ平均の7日ぶり反発や原油先物相場の上昇により、NZドル/円は66.50円の高値をつけた(⑤)。</p>

上昇要因(NZドル高・円安)

- ・世界経済の回復期待の強まり、懸念の緩和
→リスクを取ることに積極性が増す
→主要国株価の上昇
- ・NZの追加利上げ観測
- ・本邦及びG7の円売り介入

下落要因(NZドル安・円高)

- ・世界経済の回復期待の後退、先行き懸念
→リスクを取ることに消極的になる
→主要国株価の下落
- ・NZの追加利上げ観測の後退
- ・中国の金融引き締め観測

巻末の特記事項を必ずお読みください。

NZD/JPY

今週の見通し

先週のNZドル/円は、5月末から6月始めにかけて67円台に上昇したことによる達成感から、調整局面入りとなっていたものの、NZ準備銀行(RBNZ)のボラード総裁から今後の利上げを示唆する声明が出たことにより反発した。

今週のNZドル/円は先週のボラード総裁の発言を手掛かりに、底堅い地合いが予想されるものの、市場では米国の景気減速懸念が強まりつつある点には注意したい。10日にはNYダウ平均は3月半ば以来となる12000ドルの大台を割り込んでおり、仮に一段と米株安が進む場面ではリスク回避の動きが強まり、NZドル/円は一時的に下落する可能性もある。米株安が欧州やアジア株へと波及し、米国の景気停滞観測が広がりを見せる場合、NZドル/円の下値は深くなることもありえる。(川畑)

(予想レンジ:64.60~67.40円)

テクニカル分析

〔移動平均線〕

20日線 60日線 200日線

〔ボリンジャーバンド〕

+2シグマ -2シグマ



●NZD/JPY 6/10週足引値65.91円 (日足、移動平均、ボリンジャーバンドから見る相場展開)

NZドル/円は6月に入り調整局面入りとなるも、20日線を下値に反発。目先は67.41円(5/31高値)リトライが視野に入るも、バンド上限がほぼ横ばいで推移しており、67円台半ばを突破するのは容易ではなさそうである。

ボリンジャーバンドは6/10現在、上限:67.22円~下限:63.74円。バンド幅は縮小に向かっており、相場は20日線を中心に、バンド上限もしくは下限との往來相場の継続を示唆している。

移動平均は20日線(6/10時点では65.35円)や60日線(同、64.63円)、200日線(同、63.03円)いずれも上向きにつき、現在は上昇トレンドあると考えられる。下押しの際にはこれらの線がサポートとなるか注目したい。

上値ポイントは①66.50円(6/9高値)、②67.22円(バンド上限)~67.41円(5/31高値)、③68.60円(6/10時点での、2009年10月高値69.69円と、2010年5月高値69.34円を結んだ線)であり、下値ポイントは①65.35円(20日線)、②64.63円(60日線)~64.72円(6/3安値)、③63.03円前後(200日線)である。(川畑)

ZAR/JPY

ランド/円 6/6~10の主な推移



6/6
Monday

独政府報道官が「ギリシャに2回目の救済があるかどうかや、その条件について明確ではない」と伝えると、市場ではギリシャ救済の足並みの乱れが嫌気され、リスク回避の動きが強まった。また、南アフリカのデービス貿易・産業相が「ランドは資本流入により過大評価されている」「通貨高に対処する方法を話し合っている」と、ランド高けん制発言をしたことも材料視され、ランド/円は下落(①)。NY市場に入るとNYダウ平均の下落も重なり、ランド/円は11.75円の安値をつけた。

6/7
Tuesday

南アフリカのゴードン財務相は議会証言にて「ランド高を食い止める容易な方法はない」と発言。また15時に発表された南ア5月外貨準備高(グロス)が501億ドルとなり、前月(506億ドル)から減少したことで、市場では南ア準備銀行(SARB)によるランド高抑制のための介入姿勢が後退したとの見方からランド買いが優勢となった。またNYダウ平均が上げ幅を拡大したことも重なり、ランド/円はその後11.93円まで上昇した(②)。

6/8
Wednesday

欧州株の下落を背景に、ランド/円は11.77円まで下落(③)するも、NY市場に入るとNYダウ平均の7日ぶり反発や原油先物相場の上昇を背景に、ランド/円は反発した。

6/10
Friday

NYダウ平均や原油先物相場下落を背景にリスク回避の動きが強まると、ランド/円は11.80円を挟んで弱含む展開が続いた(④)。

上昇要因(ランド高・円安)

- ・日本と南アの金利差
- ・世界経済の回復期待の強まり、懸念の緩和
→リスクを取ることに積極性が増す
→主要国株価や資源価格の上昇
- ・新興国への投資の機運の高まり
- ・利下げ懸念の後退
- ・本邦及びG7の円売り介入

下落要因(ランド安・円高)

- ・世界経済の回復期待の後退、先行き懸念
→リスクを取ることに消極的になる
→主要国株価や資源価格の下落
- ・南ア経済の低迷

巻末の特記事項を必ずお読みください。

ZAR/JPY

今週の見通し

先週のランド/円はギリシャ問題の混迷や米株の下落のほか、南アフリカの介入姿勢の後退によるランド高を試す動きなど、相場を動かす材料はいくつか出たものの、いずれも決定打とはならず、ランド/円は概ね11.70円台から12円手前でのレンジ相場が続いた。

今週、米国では5月の小売売上高(14日)や消費者物価指数(15日)など、重要な経済指標の発表が相次いで予定されており、米経済の景況感を探る相場展開が予想される。ただ、10日にはNYダウ平均が12000ドルの大台を割り込んだことから、現在は悪材料に反応しやすい地合いと見られ、発表される経済指標が予想を下回る場合、米株が下落しランド/円には下落圧力が掛かる事が予想される。一方で予想を上回る場合でも、米景気の減速懸念を覆すのは容易ではなさそうであり、ランド/円の上昇は限定的となる可能性もある。(川畑)

(予想レンジ:11.60~12.00円)

テクニカル分析

〔移動平均線〕

20日線 60日線 200日線

〔ボリンジャーバンド〕

+2シグマ -2シグマ



●ZAR/JPY 6/10週足引値:11.79円 (日足、移動平均、ボリンジャーバンドから見る相場展開)

ランド/円は6月に入り、20日線とバンド上限との往來が続いている。ただ、20日線はわずかに上向きに推移していることから、同線が下値として機能する場合、相場は再びレンジ上限を試すことも想定される。ただし、20日線を明確に割り込む場合、バンド下限まで下値余地が拡大する可能性もある。今週は20日線を巡る攻防に注目したい。

ボリンジャーバンドは6/10現在、上限12.02円～下限:11.52円と、バンド幅はほぼ横ばい。現在はレンジ相場が続いていることを示唆している。

移動平均は20日線(6/10時点では11.77円)、60日線(同、12.01円)、200日線(同、11.89円)いずれも横ばいで推移。ただ、これらの移動平均線のなかで20日線が一番下にあることから、目先は上値が重い展開が予想される。

上値ポイントは①引値レベルで11.89円(200日線)、②12.02円(バンド上限)、③12.10円(5/6高値)であり、下値ポイントは①11.77円(20日線)、②11.59円(5/25安値)、③11.43円(5/13安値)である。(川畑)

巻末の特記事項を必ずお読みください。

経済指標カレンダー (6/13~15)

日付	時刻	注目度	経済指標、イベント等	前回	予想
6/13	—		シドニー休場(女王誕生日)、チューリッヒ休場(聖霊降臨節の振替休日)		
(月)	8:50		(日) 4月機械受注 [前月比]	+2.9%	+2.3%
			(日) 4月機械受注 [前年比]	+6.8%	+5.0%
6/14	未定	◎	(日) 日銀金融政策決定会合	—	—
(火)	11:00	○	(中) 5月生産者物価指数 [前年比]	+6.8%	+6.5%
	11:00	○	(中) 5月消費者物価指数 [前年比]	+5.3%	+5.5%
	11:00	○	(中) 5月小売売上高 [前年比]	+17.1%	+17.0%
	11:00	○	(中) 5月鉱工業生産 [前年比]	+13.4%	+16.9%
	13:30		(日) 4月鉱工業生産・確報 [前月比]	+1.0%	—
			(日) 4月鉱工業生産・確報 [前年比]	-14.0%	—
	17:30	◎	(英) 5月消費者物価指数 [前月比]	+1.0%	+0.2%
		◎	(英) 5月消費者物価指数 [前年比]	+4.5%	+4.4%
	17:30	○	(英) 5月小売物価指数 [前月比]	+0.8%	+0.4%
		○	(米) 5月生産者物価指数 [前月比]	+0.8%	±0.0%
	21:30	○	(米) 5月生産者物価指数 [コア: 前月比]	+0.3%	+0.2%
		○	(米) 5月生産者物価指数 [前年比]	+6.8%	+6.6%
		○	(米) 5月生産者物価指数 [コア: 前年比]	+2.1%	+2.1%
	21:30	◎	(米) 5月小売売上高 [前月比]	+0.5%	-0.4%
		◎	(米) 5月小売売上高 [前月比: 除自動車]	+0.6%	+0.3%
	21:30		(加) 第1四半期設備稼働率	76.4%	—
	23:00		(米) 4月企業在庫 [前月比]	+1.1%	+0.8%
6/15	14:00		金融経済月報・基本的見解(日銀)	—	—
(水)	17:30	◎	(英) 5月失業保険申請件数	+1.24万件	+0.52万件
	17:30	◎	(英) 5月失業率	4.6%	4.6%
	18:00		(ユーロ圏) 4月鉱工業生産・季調済 [前月比]	±0.0%	+0.1%
	20:00		(南ア) 4月実質小売売上高 [前年比]	+5.1%	+4.9%
		◎	(米) 5月消費者物価指数 [前月比]	+0.4%	+0.1%
	21:30	◎	(米) 5月消費者物価指数 [コア: 前月比]	+0.2%	+0.2%
		◎	(米) 5月消費者物価指数 [前年比]	+3.2%	+3.3%
		◎	(米) 5月消費者物価指数 [コア: 前年比]	+1.3%	+1.4%
	21:30	○	(米) 6月ニューヨーク連銀製造業景気指数	11.88	13.50
	22:00	○	(米) 4月対米証券投資 [ネットフロー合計]	+1160億USD	—
		○	(米) 4月対米証券投資 [ネット長期フロー]	+240億USD	—
	22:15	○	(米) 5月鉱工業生産 [前月比]	±0.0%	+0.3%
	22:15		(米) 5月設備稼働率	76.9%	77.1%
	23:00		(米) 6月NAHB住宅市場指数	16	16

巻末の特記事項を必ずお読みください。

経済指標カレンダー (6/16~17)

日付	時刻	注目度	経済指標、イベント等	前回	予想
6/16			ヨハネスブルグ休場(青年の日)		
(木)	07:45		(NZ) 第1四半期製造業売上高 [前期比]	+3.1%	—
	16:15		(スイス) 第1四半期鉱工業生産 [前年比]	+6.1%	+5.8%
	16:30	○	(スイス) スイス中銀政策金利発表	0.25%	—
	17:30	○	(英) 5月小売売上高指数 [前月比]	+1.2%	—
		○	(英) 5月小売売上高指数 [前年比]	+2.7%	—
	18:00		(ユーロ圏) 5月消費者物価指数・確報 [前年比]	+2.7%	+2.7%
	21:30	◎	(米) 6/11までの週の新規失業保険申請件数	42.7万件	—
	21:30	◎	(米) 5月住宅着工件数	52.3万件	54.0万件
	21:30		(米) 5月建設許可件数	56.3万件	55.3万件
	21:30		(米) 第1四半期経常収支	-1133億USD	-1260億USD
	23:00	◎	(米) 6月フィラデルフィア連銀景況指数	3.9	7.0
6/17	08:50		(日) 日銀金融政策決定会合議事要旨 (5月19・20日分)	—	—
(金)	18:00		(ユーロ圏) 4月建設支出 [前月比]	-0.3%	—
	18:00		(ユーロ圏) 4月貿易収支	+28億EUR	-21億EUR
	21:30		(加) 4月卸売上高 [前月比]	+0.1%	—
	22:55	◎	(米) 6月ミンガン大消費者信頼感指数・速報値	74.3	74.5
	23:00		(米) 5月景気先行指数 [前月比]	-0.3%	+0.2%

※発表日時は予告なく変更される場合があります。

※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。